

37. イニゴはどうやって天国へ行ったか

ピニタヤン、スングイという、サマルルの北端の村全体で、ベルトほど怠惰で、無能な少年はいませんでした。彼の両親が、彼を良い、役立つ少年にしようと努力しなかった、とは言えません。彼らは努力したのです。しかし、直しようがなかったのです。

ある日、彼が特にいたずらをしてきた後、彼の母は、棒を持って、彼を追いかけてきました。すると、彼は、彼女が本当に怒っていることを知り、数日、家から離れることに決めました。

彼は、町に着くまで歩き続けました。その町は大変遠くて、村の人々の中で、そこに行ったことのある人はひとりかふたりだけでした。

町の音や景色、そしてにおいは彼を大いに喜ばせました。その町は、おとぎの国のようでした。

数日過ぎて、彼は家に帰ることにしました。その美しい町では、彼はしばしば空腹になり、ここでは、寝るための暖かな場所はありませんでした。彼は、兄弟や姉妹や友人たちとの交際にも失敗しました。

彼の両親は、彼と再び会えた喜びで、彼を叱ることを忘れていました。彼らは、その町での彼の冒険について話すように頼みました。彼の兄弟や姉妹もその町について聞きました。他の人々も町について聞きました。時間が経つにつれて、彼はその町で本当に見たこと、聞いたことに加えて、不思議な話を作り上げるようになりました。

「天国は、そんなところに違いない。」と人々は言いました。

すると、ある日、彼は友人のイニゴに会いました。イニゴは村から、いくつか丘と谷を越えたところに住んでいました。

「何週間も会わなかったね。」とイニゴが言いました。「どこに行っていたんだ？」

「天国だよ。」ベルトは言いました。

「そりゃ、どんな所だい？」

ベルトは、彼に言いました。

「僕も、そこへ行ってみたいなあ。」イニゴが言いました。

「君が行きたいのなら、連れて行ってあげるよ。」とベルトは答えました。

「本当かい。うれしいなあ。」

「君は僕の最高の友だちだ。一緒に連れて行ってあげるよ。」

「待ち遠しいなあ。何時出発するんだい。」

「それは、遠い、遠いところだから、僕たちは、先ず準備をしなければならない。例えば、食べ物だなあ。」

「それは僕が何とかするよ。」

「それはいい。君は、お母さんに頼んで、たくさんのお餅を作ってもらえばいい。それが長旅には最高だ。なぜなら、それは直ぐには、腐らないからだ。」

二日過ぎて、彼らは出かける用意ができました。イニゴの母親は、たくさんのお餅を作り、二籠になりました。

「でも、どうして夜に出発することにしたの？」イニゴの母は、聞きました。

「僕たちは、他の人たちに知られたくないんだ。そうなったら、彼らもついて来なくなるだろう。」

ベルトは答えました。

イニゴは頷きました。

「さあ、息子よ、行ってらっしゃい。」と彼女は言いました。「行ってらっしゃい、ベルト。イニゴのことを頼んだわよ。あなた自身も気をつけるんだよ。」

「わかったよ。」ふたりの少年は言いました。

「できるだけ早く帰って来るんだよ。」彼女は言いました。

暗くなりました。彼らは、一歩先を見ることもできません。そこで、ベルトは、イニゴの手を引いて、導きました。

彼らは歩き続けました。

「どれくらい遠くまで歩かなきゃならないの？」イニゴは、ときどきそう言いました。

「そこは、まだ遠いよ。」とベルトが言いました。

「でも、僕たちはぐるっと回っているように思うんだけど。」とイニゴは言いました。

「君は間違っている。君がそう思うだけだよ。」  
彼らは、もう少し歩きました。

何時間が過ぎた後、ベルトが言いました。「君は、今、袋に入る必要がある。忘れなかったらうね。」

## フィリピン 神話と伝説

「持っているよ。」とイニゴが言いました。「でも、僕が袋に入ったら、どうやって僕は君に付いて行くだろう?」「僕が君を運ぶんだよ。」

「どういうことだい?」

「道は、ここから危険が一杯だ。巨人や、竜や、そして他の怪物たちがいる。君がそいつらを見たら、死んでしまうだろう。もし、それらの一つが君を見たら、君は石に変えられてしまう。」

そして、イニゴは袋に入りました。するとベルトはそれを持ち上げ、彼らはその道をまた歩き出しました。

「僕たちは、登っているみたいだね。」しばらくして、イニゴはそう言いました。

「そうだよ。」と、ベルトは答えました。「しかし、これからは、誰にも何も言うてはいけないよ。これらの怪物が君の言葉を聞いて、君と僕を殺すかも知れないから。」

ベルトはすぐに息が切れてきました。その道は急勾配になってきたようで、彼の運んでいる袋はどんどん重くなってきました。しかし、彼は止まりませんでした。

ときどき、ベルトの重荷は、何か固いものにぶつかったり、鋭いものに当たったりして、イニゴは、うめきました。

「静かにしろ!」とベルトは言いました。「天国への道は、岩やトゲでいっぱいなんだ。」

どこか離れたところで、雄鶏が鳴きました。

「あれを聞いたか?」とベルトはつぶやきました。「僕たちは、ついに天国の門に近づいてきたぞ。あれは、聖ペトロの雄鶏だ。」

「ああ、うれしいなあ。」イニゴはうしろでつぶやきました。「もうすぐ天国だね。」

少ししてベルトが言いました。「僕は、少しの間君をここに残さなければならない。僕は、聖ペトロに、君を天国に入れるための許可を得なければならないんだ。」

「でも、僕のためにすぐに帰ってきてくれよ。」とイニゴは言いました。

「やってみるよ。でも、僕が帰るのが、君が考えるより遅くなっても、我慢するんだよ。聖ペトロを説得するのに時間がかかるかもしれないから。」

ベルトは、木に袋をぶら下げました。しかし、彼は、なおもうひとつ、イニゴに忠告をしました。彼は言いました。「ただ、静かにしているんだよ。ここには、放浪する怪物がいるんだから。」

37. イニゴはどうやって天国へ行ったか

イニゴは、静かにして、すぐに眠ってしまいました。

何時間も過ぎましたが、ベルトは帰ってきません。

次の日、イニゴの母は、彼女の畑の大きなオレンジの木の下に、袋がぶら下がっているのを不思議に思いました。彼女はそれが、何か素晴らしい使者によって下ってきたもので、膨大な富が含まれていると、期待しました。しかし、袋の中に入っていたのが彼女のただひとりの息子であったことに気づいた時、彼女がどんなに驚いたか、あなたは想像できるでしょう!

ベルトはどこにも見つけることができませんでした。しかし、彼の痕跡を見つけるのは簡単でした。スマンと彼が食べた他の餅のために包装紙として使ったバナナの葉によってその印がわかりました。

## 練習問題

### 語彙の学び

次の単語の意味を調べなさい。それぞれの単語を使って、文章にしなさい。

1. shiftless
2. chased
3. enchanted
4. companionship
5. invent
6. journey
7. monsters
8. panting
9. impatient
10. persuade

### 物語を理解する

正しいか、間違っているか、答えなさい。

1. ベルトは、よく働く少年でした。
2. ベルトの両親は、最高の努力して彼を良い、役に立つ少年にしようとしました。
3. ベルトは、数日を遠くに行き住むことにしました。それは、彼の友人が家に来るようにと招待したからです。
4. ベルトは、数週間町に滞在しました。
5. ベルトは、彼の両親に、町での冒険について、すべてを語ることはしませんでした。
6. イニゴは、ベルトのいとこです。
7. ベルトは、イニゴに、天国への旅のために、

## フィリピン 神話と伝説

ローストチキンを用意するように頼みました。

8. 旅を始めていくらか時間が過ぎてから、ベルトは、イニゴに袋の中に入るように頼みました。

9. ベルトは、彼の友人イニゴをからかいました。

10. イニゴの父は、畑の大きなオレンジの木に袋がぶら下がっているのを見つけました。

### 明確化と発展の評価

1. あなたは、友人や兄弟姉妹を時々からかいますか？どんなからかいですか。無垢なものですか？それとも残酷なものですか？これら二つの違いは何ですか？

2. どんな無垢なからかいも、時々暴力的で、悲劇的なものになることを知っていますか？実際の出来事の例を挙げてください。

3. どんな状況の下で、あなたは誰かへのからかいを行うべきでしょうか？